大麻町グランドデザイン（素案）

グランドデザインの位置づけ

グランドデザイン策定の考え方

本グランドデザインは、人口減少などの社会状況や、大麻町が有する歴史文化資源などの地域特性、そして町民アンケートや未来づくり会議の意見等も踏まえながら総合的に整理したものです。

グランドデザインの役割

本グランドデザインは、大麻町の将来像やまちづくりの方向性を示すとともに、今後のプロジェクトの方向性や可能性を示したものです。

プロジェクトの位置づけ

掲載しているプロジェクトは、まちづくりの方向性を示す具体例や可能性として整理したものであり、現時点で実施を決定しているものではありません。
今後は、関係者との各種調整や地域住民の意見などを踏まえながら、個別事業として具体化を検討していきます。

目次

CONTENTS

1　目指すまちづくり …… 4

2　短期的プロジェクトの概要 …… 19

3　中期的プロジェクトの概要 …… 34

4　まちづくりの新しいカタチの検討 …… 40

5　今後の検討の流れ …… 45

6　参考資料 …… 47

01

目指す
まちづくり

目指すまちづくり　－グランドデザインの策定について－

グランドデザイン策定の趣旨・目的

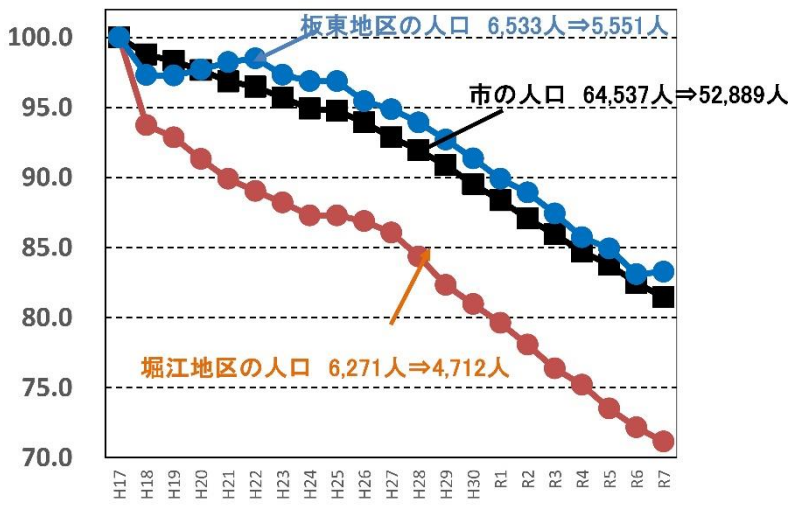
人口減少・高齢化が進行する中、大麻町では、商店の撤退や希薄化する地域の繋がり、高齢者などの移動ニーズへの対応など、様々な課題が深刻化しています。

こうした人口減少を要因とした、地域活力の低下を前提に、それでも大麻町に住むことが幸せだ、住み続けたいと思える、町の方向性やビジョンを描き、各種取組を推進していく必要があります。

そこで、地域の将来像となる大麻町グランドデザインを策定し、町に住む人の利便性や満足度を高めるとともに、町外の人からも魅力的に映るよう、取組を進めることを目的とします。

本市人口と大麻町人口の過去20年間の推移

平成17年を100とした場合



戦略企画課　小字別人口より

グランドデザイン策定の方針

今、町が直面している課題に対応していくために、生活利便性の確保・産業振興・地域コミュニティの活性化・観光振興を４つの柱として、町民の幸福度の向上に取り組みます。

なお、グランドデザインは、近年の技術革新や社会情勢の変化等を見据え、適宜、見直しを図っていく予定です。

生活利便性の確保　暮らしやすくなることで、生活満足度の高いまちへ

産業振興　安定した産業や経済が持続可能性の高いまちへ

地域コミュニティの活性化　地域住民が集まる居場所を創出し、まちへの愛着や人との繋がりを深められるまちへ

観光振興　観光資源をより魅力的なものにし、また来たい、関わりたいと思うまちへ

目指すまちづくり　- ４つの柱を設ける理由　-

生活利便性の確保

人口が減ると、需要が低下し、スーパーや病院の撤退が進み、生活が不便になり仕事も減る。また、若者が流出することで、高齢化が加速する。高齢者が増えると免許返納者への対応など移動ニーズが高まるが、運転手不足できめ細やかな移動ニーズに応えられなくなる。

⇒生活の基盤が崩れることが人口減少を加速させ、住みづらいまちへ。よって、住民が暮らし続けられる「生活利便性の確保」が重要。

産業振興

人口が減ると、地域内サービスの縮小などの経済基盤が弱体化する。人が減っても地域が小さくても回る、暮らしを支えられる、経済性の確保が必要となる。こうした経済性の下支えがなければ、生活利便性の確保や地域コミュニティの持続性は確保できない。

⇒基幹産業である農業や地域資源を活用した新たな創業に関する「挑戦」が生まれる「産業振興」が重要。

地域コミュニティの活性化

人口が減ると、人と人との繋がり、助け合い・見守りといった地域コミュニティが低下し、孤立や無関心が進む。特に、日常の中で地域との接点が失われると、シビックプライドを低下させ、更なる人口流出を招く。

⇒「用事がなくても立ち寄りたい」、「あそこにいけば誰かいる」といった、日常的に人が集まれる場を確保し、「地域コミュニティ」の活性化を図ることが重要。

観光振興

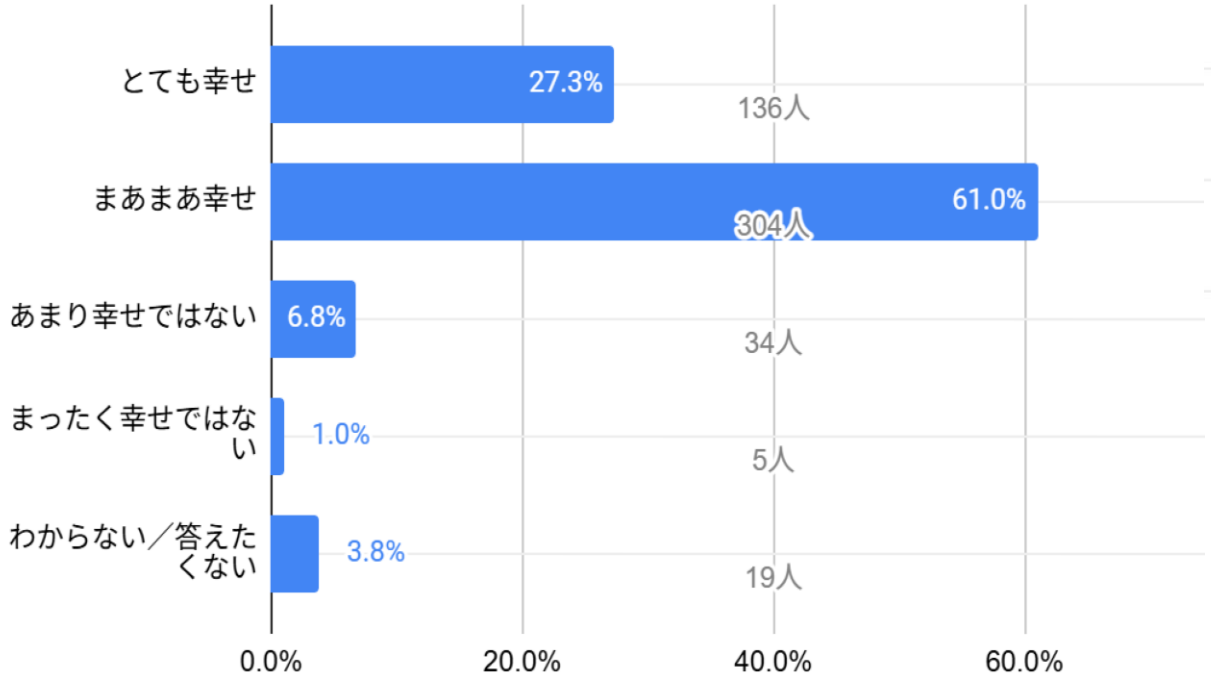
人口が減ると、町内だけで経済や活動を完結させることが難しくなる。外部との繋がりが町の持続性を支える重要な要素となる。観光消費だけでなく、「また来たい」「関わりたい」と思う関係人口に繋げることは、町の価値の再認識や住民のシビックプライドに繋がる。

⇒歴史・文化資源は大麻町の大きな特徴であり、強み。外部からの「来訪」や「外部からの関わり」を通して内部を活性化させる「観光振興」が重要。

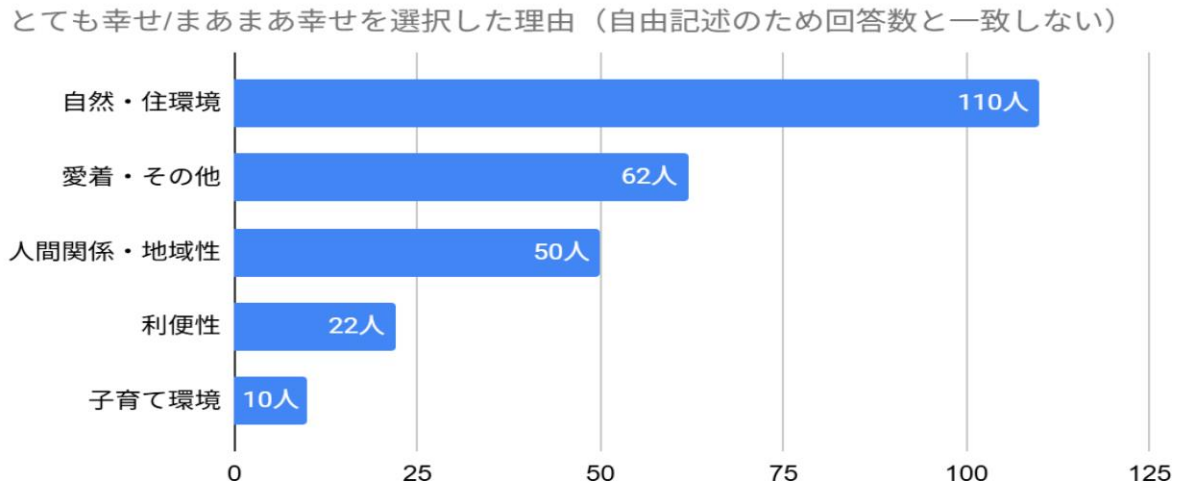
【まちづくりの方向性】
「生活利便性が確保できることで、様々な挑戦が生まれる」「経済の下支えがあることで、暮らしに余裕が生まれる」
「コミュニティが機能するから支え合いが生まれる」「外と繋がるから、内側が回り続ける」 など
４つの柱が相互に補完することで、「この町に住み続けたい」「関わり続けたい」という状況をつくる。

⇒人口減少下では、成長や拡大を前提とするのは難しい。多面的で相互に補完する仕組みが必要。
これらの取組を機能させることで、人口減少が進行するなかでも、住民の幸福度が自然に高まることを目指す。

Q8: 大麻町に住んで幸せですか？（有効回答数：498人）



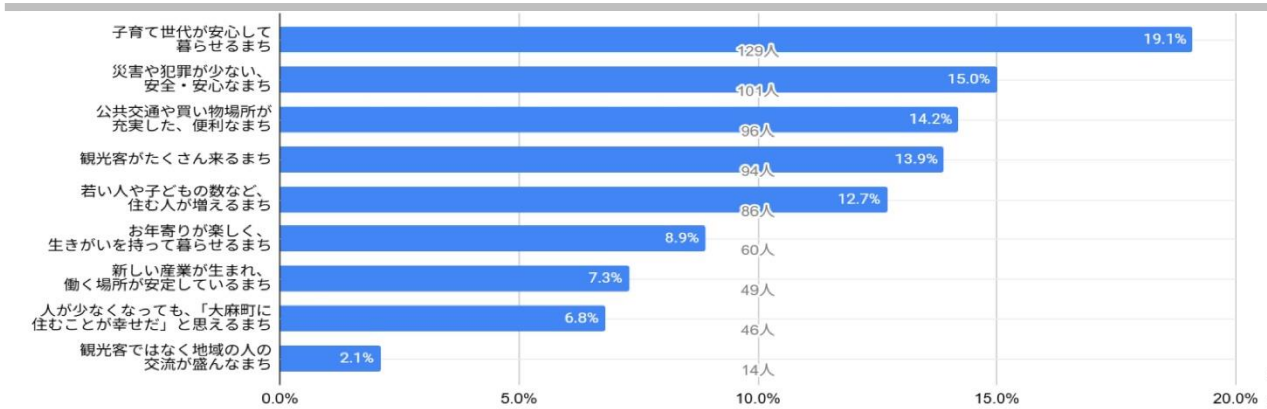
Q9: Q8でそう感じた理由や、思っていることがあれば教えてください

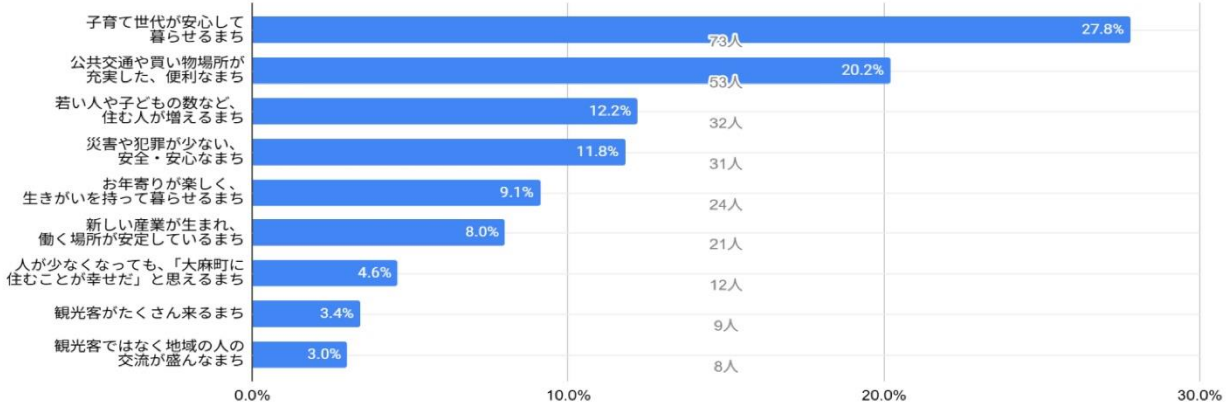


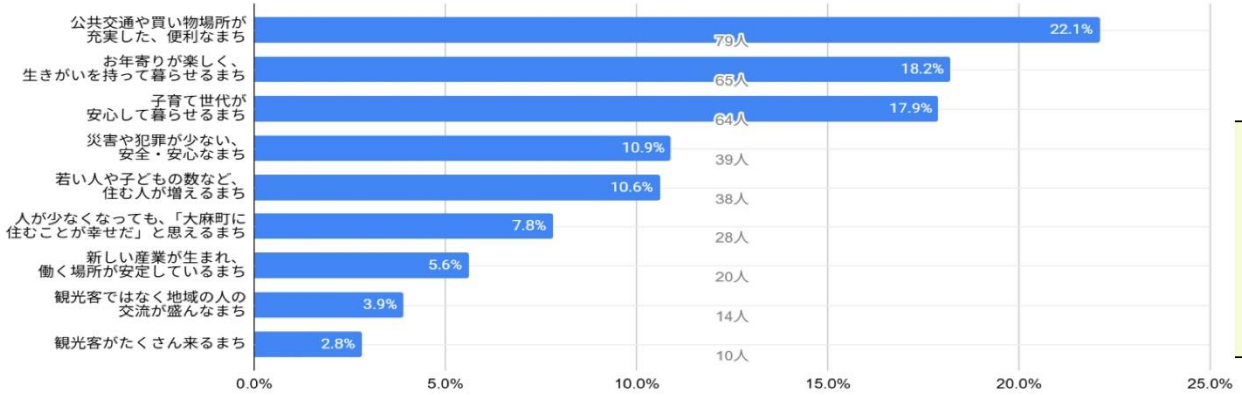
・住民の幸福度は、「自然の豊かさ」や「静かな住環境」といった町の魅力に支えられている。

（出典）R7．10．16「第2回大麻町未来づくり会議公表 アンケート結果より」

目指すまちづくり　- 町民が望む未来の姿　-







10代～20代（若者世代）が望むまちの姿 TOP3

1．子育て世代が安心して暮らせるまち
2．災害や犯罪が少ない、安全・安心なまち
3．公共交通や買い物場所が充実した、便利なまち

30代～50代（子育て・現役世代）が望むまちの姿 TOP3

1．子育て世代が安心して暮らせるまち
2．公共交通や買い物場所が充実した、便利なまち
3．若い人や子どもの数など、住む人が増えるまち

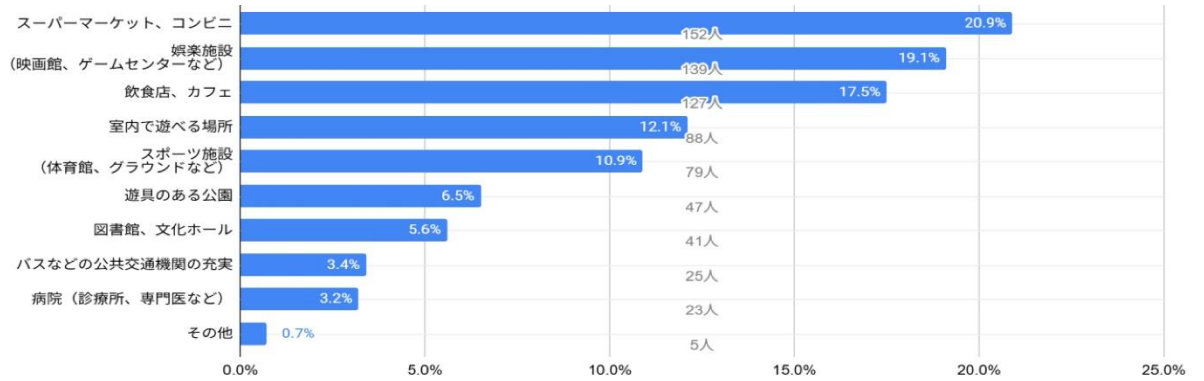
60代～70代以上（高齢者世代）が望むまちの姿 TOP3

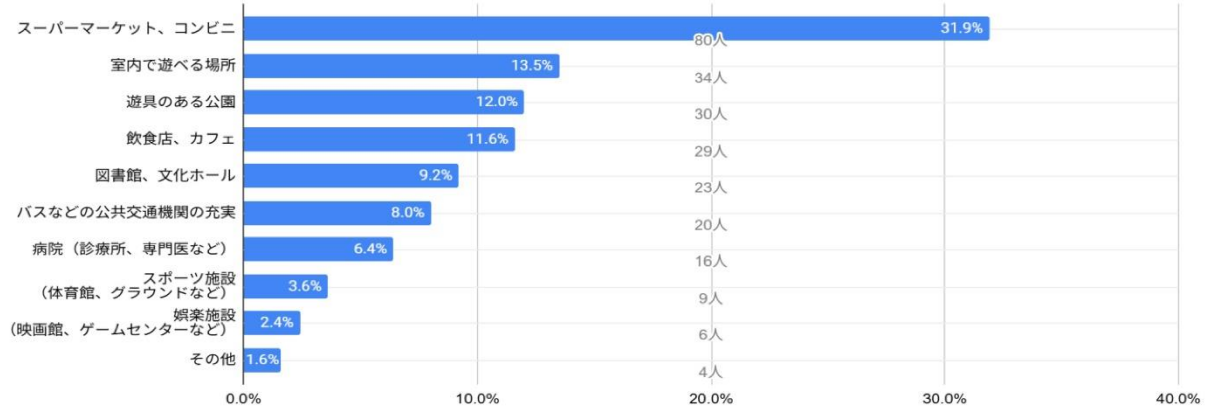
1．公共交通や買い物場所が充実した、便利なまち
2．お年寄りが楽しく、生きがいを持って暮らせるまち
3．子育て世代が安心して暮らせるまち

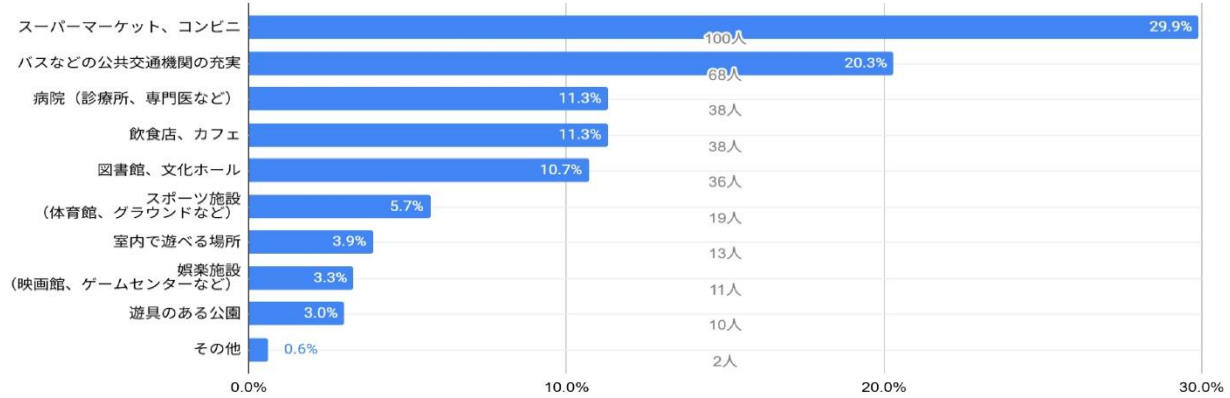
・すべての世代において、「子育てのしやすさ」と「生活の利便性（買い物や交通）」を重視されている。
・世代ごとに特徴も見られ、若者世代は「安全・安心」を、子育て・現役世代は「人口増」を、高齢者世代は「自身の生きがい」をそれぞれ重視する傾向があり、世代別の多様なニーズが存在する。

（出典）R7．10．16「第2回大麻町未来づくり会議公表 アンケート結果より」

目指すまちづくり　- 町民が求めているものは？ -







10代～20代（若者世代）が望む施設 TOP3

1．スーパーマーケット、コンビニ
2．娯楽施設（映画館、ゲームセンターなど）
3．飲食店、カフェ

30代～50代（子育て・現役世代）が望む施設 TOP3

1．スーパーマーケット、コンビニ
2．室内で遊べる場所
3．遊具のある公園

60代～70代以上（高齢者世代）が望む施設 TOP3

1．スーパーマーケット、コンビニ
2．バスなどの公共交通機関の充実
3．病院（診療所・専門医など）
飲食店、カフェ

・「スーパーマーケット・コンビニ」は世代を問わず最も求められている施設である。
・世代ごとに求めるニーズは異なり、若者世代は「娯楽・飲食店」、子育て・現役世代は「公園など子どもの遊び場」、高齢者世代は「公共交通機関」や「病院」をそれぞれ重視している。

（出典）R7．10．16｜第2回大麻町未来づくり会議公表 アンケート結果より」

目指すまちづくり　- 未来づくり会議委員の主な意見（抜粋）　-

① 観光・賑わい（A班）

- 道の駅「第九の里」の機能強化
- 地域資源を活用した観光振興
- 大麻分署跡地の活用
  （お試し居住＋チャレンジキッチンで移住や起業促進など）
- SNSで情報発信が弱い点を改善　　など

⇒「主な意見として、既存資源を活用した交流・賑わい創出を生み出す取組について意見がだされている」

② 産業・仕事（B班）

- 耕作放棄地の活用（陸上養殖）
- 買い物機能の強化
- 市街化調整区域の見直し　など

⇒「主な意見として農業を含めた新たな産業創出について意見がだされている」

③ 子育て・教育（C班）

- 公園・遊び場が不足
- 子育て世代が集まれる場所が必要
- 買い物・飲食機能の充実
- 津波が来ないエリアとしてＰＲしたら良い　など

⇒「主な意見として、子育て世代が日常生活で困らない環境整備について意見がだされている」

④公共交通・移動支援（D班）

- シャトルバスなど新たな移動手段の導入
- タクシーチケットの配布などの移動支援の充実
- 観光シーンも見据えた移動手段の導入　など

⇒「主な意見として移動手段の利便性向上について意見がだされている」

目指すまちづくり　- 町民感覚から見た大麻町の特徴　-

基本的な価値観

自然・落ち着いた環境を評価し、幸福度は高い。
一方で、買い物場所の確保や利便性のある交通手段へのニーズは高い。

生活行動から見える特徴

大型商業や娯楽などは、藍住や北島などの周辺地域を日常的に利用。
また、現役世代は車での移動に不安がないが、高齢者の移動に関する将来不安が存在。

世代別の傾向

買い物や飲食、移動や通院、子どもと遊べる場所など、世代差はあるが、共通して重視しているのは「利便性の向上」
また、人口増加を望む声はあるが、子育ての安心や利便性向上の方が優先順位は高い。

未来づくり会議委員の意見

子育て環境の充実や移動支援など、アンケートと同様の課題感をもっているとともに、移住や起業支援、プロモーション強化、農業振興など、地域の良さや資源を活用した新たな取組の提案がある。

【まとめ】

- 大麻町の住民は、自然や静かな環境といった現在の暮らしの良さを大切にしながらも、**買い物や移動、子育てといった日常生活の不便さに、現実的な課題意識を持っている。（世代間で共通している。）**
- また、飲食や子どもと遊べる場所など、地域住民が集える場所、**いわゆるコミュニティが生まれる場の創出がまちづくりを進める上で重要と考えられる。**
- そのうえで、大麻町未来づくり会議委員からは、暮らしを守り、将来につなげていくために、**新たな取組や挑戦が、生まれていくことを期待する声も見られる。**

課題

大麻町には、霊山寺、板東俘虜収容所に由来する第九の歴史、大谷焼など、全国的にも特徴のある歴史・文化資源が存在している。これらは大麻町の大きな魅力であり、地域のブランドを形成する重要な資源である。

一方、現状では歴史・文化資源が主に「**観光振興」として活用されているものの、「産業振興」や「地域コミュニティの活性化」などと、連動した活用は、まだ十分とは言えない状況にあると考えています。**

主な要因

① エリアとしての魅力形成が弱かった

豊富な歴史・文化資源は存在するものの、周辺エリアと連動した面的な活用が進んでいなかった。

② 滞在や交流につながる機能や仕組みが不足していた

飲食や体験などの受け皿が少なく、観光客が地域に滞在し、回遊するだけでなく、地域住民が日常的に集い交流できる場としての活用も十分ではなかった。

③ 情報発信が十分ではなかった

地域資源の魅力を体系的に発信する体制がなく、認知度が十分に高まっておらず、シビックプライドの醸成に繋がりにくい側面があった。

そのため本グランドデザインでは、歴史・文化資源を単体の観光資源として活用するのではなく、拠点施設の整備や空き家活用、マルシェ等の交流事業、シティプロモーションなどを組み合わせながら、地域住民が日常的に集まれる居場所づくり、エリア価値の向上や地域内外の人が関わる機会の創出など、**観光客だけでなく地域住民にとっても魅力ある場を創出する仕組みづくり**が必要であると考えている。

目指す将来像

はじまりを醸（かも）す　大麻町

大麻町は、鳴門市の中でも、歴史・文化を受け継ぎながら、福祉や防災など、人の暮らしを支える機能が集積する地域であり、
本構想では、そうした特性を活かしながら、地域内外の人が関わり、挑戦が生まれ、新たな価値を生み出すまちづくりを進めていく

「はじまりを醸す　大麻町」

大麻町は、四国遍路の第一番札所である霊山寺を有し、人々の旅の**「はじまり」**となる町である。
また、第一次世界大戦中に板東俘虜収容所において、ベートーヴェン「第九」がアジアで初めて演奏された地として、文化交流と共生の**「はじまり」**を刻んできた。さらに、酒造や醤油づくり、大谷焼に代表される陶芸文化など、発酵や手仕事を通じて、時間をかけて価値を育てる、**「醸す」**営みが根付いてきた。

「はじまり」とは、人が関わり始めること、挑戦の一歩を踏み出すこと、地域の関係が静かに動き出すこと、などを意味しており、
「醸す」とは、時間をかけて価値や地域におきる変化、担い手が育っていくことを意味している。

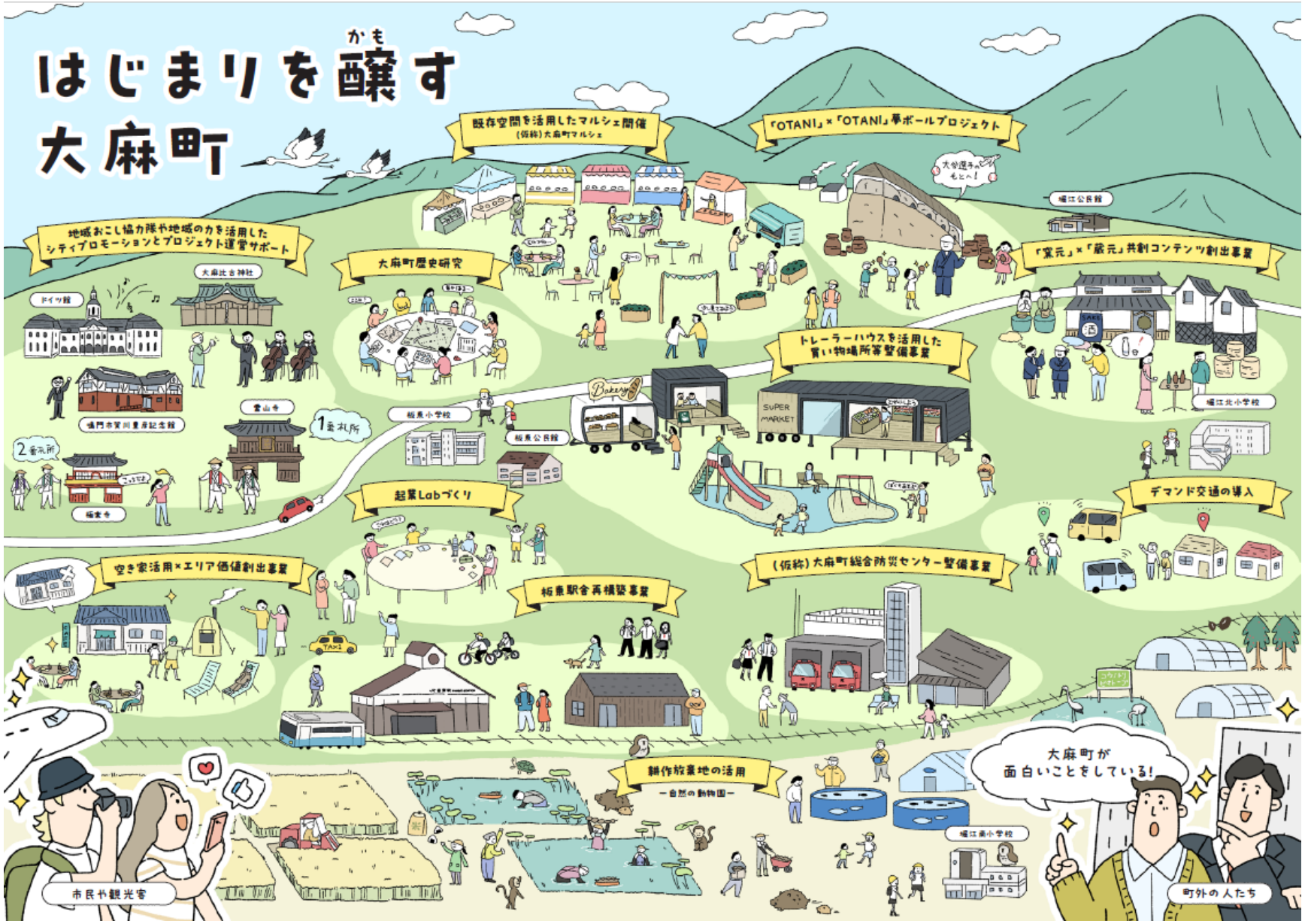
さらに、大麻町には多くの福祉施設が立地し、地域全体で高齢者や障がい者などを支える「福祉の町」としての側面を有している。
加えて、古くから存在する寺社が過去の地震にも耐えて現存しており、「災害に強い町」でもある。人を支え守る地域の基盤が
「はじまり」と**「醸す」**を支える土台としてあることも、大麻町の大きな特徴である。

そして、「はじまりを醸す 大麻町」とは、一過性の賑わいや消費を目的とするのではなく、人々が関わり、挑戦し、次の一歩を
踏み出す大麻町の地域特性である**「はじまり」**が、時間をかけて**「醸す」**ことで、未来へとつながっていく町の姿を示す言葉である。

このコンセプトのもと、**「生活利便性の確保」、「産業振興」、「地域コミュニティの活性化」、「観光振興」**を横断的に繋ぎながら、
新たな人の流れや地域内の経済循環、担い手の創出などの好循環が生まれる**「醸成の場」**として、
20年後においても幸福度の高い地域の実現を目指していく。

・**はじまり**⇒人がくる、関わりはじめる、挑戦がうまれる
・**「醸す」**⇒新たな価値を生み出す。地域におきる変化

目指すまちづくり - 将来イメージ（案）-



５つの方針

１．行政が最初の一歩を踏み出す

人口減少や担い手不足が進む中で、最初の挑戦は行政が主体となって、場や仕組みを立ち上げる。
また、社会実験の結果などを踏まえ、実態にあわせて柔軟な対応を行う。
なお、活動が定着し、担い手が育ってきた場合、可能なものに限り行政は環境整備や調整役へと役割を移行することも検討する。

２．「生活利便性の確保」を「はじまりの土台」とする

人が関わり始め、活動や挑戦が生まれるためには、まず安心して暮らし続けられる基盤の確保が不可欠である。
このため、本計画においては、買い物や移動支援など、短期的に生活利便性の確保を優先事項として位置づける。

３．「関わり始めたくなる暮らしの舞台」をつくる

未来を担う若い世代や子育て世代が、「何かしてみたい」「少し関わってみたい」と感じられることを大切にする。
訪れるための場所だけではなく、時間を過ごし、関係が始まる「コミュニティ」の場を創出していく。

４．暮らしと活動の重なりから「地域の価値」を高めていく

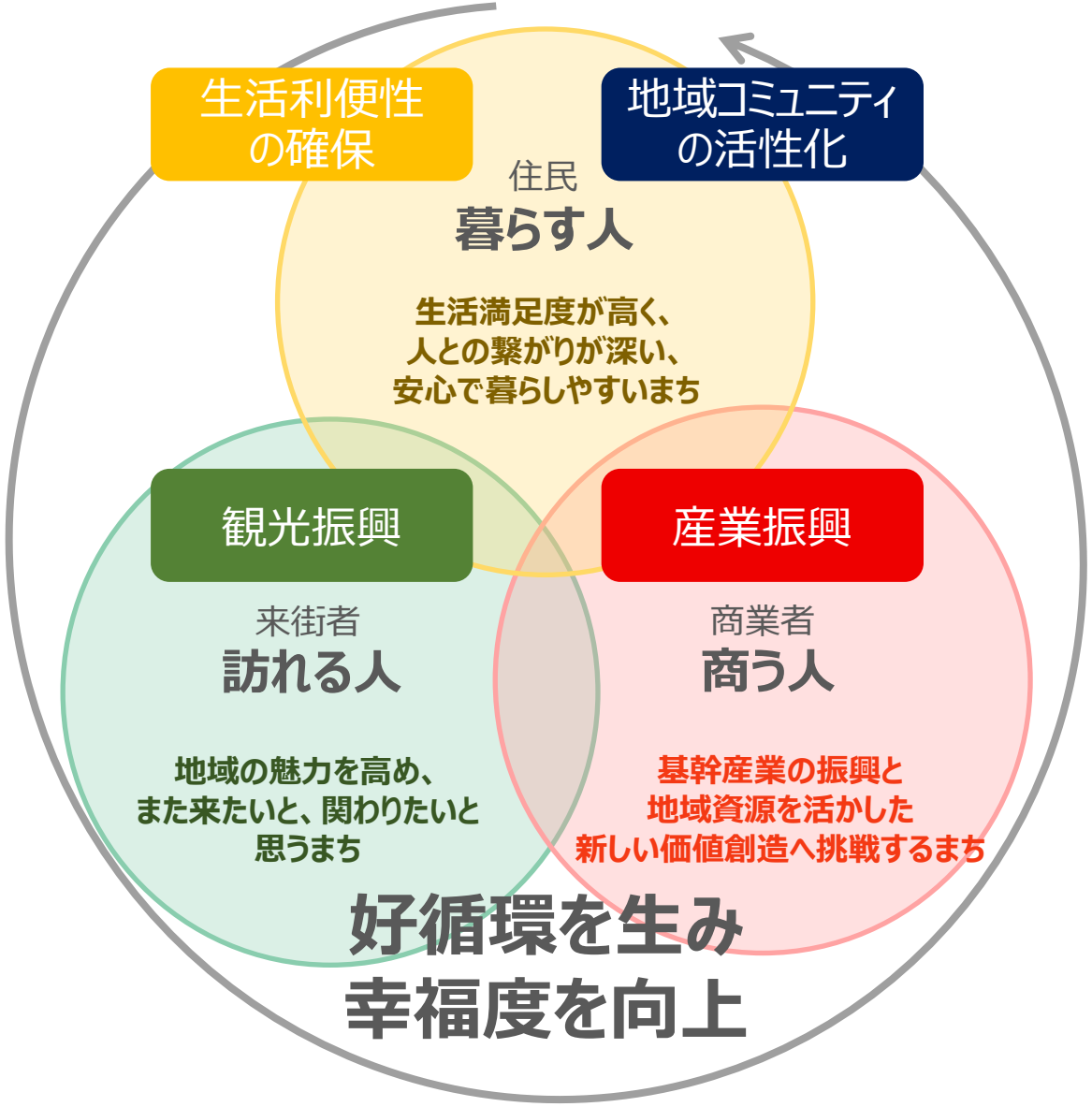
新たな拠点整備や既存資源の活用を通じて、生活、産業、交流が重なり合う仕組みを作る。
単なる施設整備ではなく、人の動きや関わりが連鎖することで、点ではないエリア価値向上を目指す。

５．　技術革新を視野に入れた柔軟な対応

近年の技術革新はスピードが早く、未来を見据えて完成形を固定すること自体が、かえって持続性を損なう可能性がある。
このため、特定の技術や仕組みを前提とするのではなく、状況の変化に応じて、柔軟に取り入れ、見直すことを基本とする。

目指すまちづくり　- ４つの柱の相互連携による幸福度向上の好循環 -

４つの柱が相互連携することで、好循環を生み出し、「暮らす人」、「商う人」、「訪れる人」の幸福度を維持・向上することで、持続可能なまちをつくる



暮らす人

「生活利便性の確保」×「地域コミュニティの活性化」
- 生活利便性（買い物や交通など）が整う
  → 日常の外出や交流が増えることで、地域コミュニティが活性化
- 地域コミュニティが活性化　→ 見守り・助け合い・居場所が生まれ、安心して暮らせる環境が形成

「観光振興」×「生活利便性の確保」
- 観光コンテンツの磨き上げ
  →　交通・飲食などの質を高めることは、暮らす人の生活利便性の底上げへ繋がる

「産業振興」×「地域コミュニティの活性化」
- 産業（商い）が地域に根付く　→ 雇用や役割の場が生まれ、コミュニティに関わる人が増える

商う人

「生活利便性の確保」×「産業振興」
- 挑戦できる場の確保　→ 生活利便性を確保することで、挑戦の土台を整える。

「地域コミュニティの活性化」×「産業振興」
- 地域コミュニティが活発　→ 地元消費・応援・口コミが生まれ、新規事業が立ち上がりやすくなる

「観光振興」×「産業振興」
- 観光客が来る　→ 売上・認知・テストマーケットになることで、 地域産業の振興に繋がる

訪れる人

「産業振興」×「観光振興」
- 地域産業が磨かれる　→ 食や体験などが観光資源になることで、「ここにしかない理由」が生まれる

「生活利便性の確保」×「観光振興」
- 暮らしやすいまち　→利便性が向上すれば、訪問する動機も高まり、「まち」に関わりたい人も増える

「地域コミュニティの活性化」×「観光振興」
- シビックプライドのあるまち　→地域コミュニティへの誇りが、地域の魅力を高め、観光から関係に変わる

目指すまちづくり　- 事業一覧 -

地区の方向性（めざす姿）

買い物×公共交通

- 食料品等日常生活に必要なモノの買い物ができ、移動手段も確立されている

エリア価値の創出×地域住民の居場所づくり

- （仮称）大麻町総合防災センターや板東駅舎の再構築、大麻分署跡地の活用を起点として、空き家活用により周辺エリア価値の創出が図られている。
- 定期的なマルシェ開催を通して、地域住民が集い、関係を育む居場所が創出されている。

伝統産業の更なる振興と大麻町の歴史研究

- 大谷焼、蔵元などの伝統産業から「伝統×革新」による新たな価値（産業振興や関係人口増加など）が創出されている。
- 大麻町の多様な歴史を研究し、勉強会などを通じて町内外に発信。これからのまちづくりに生かされている。

シティプロモーションの強化

- 地域の魅力の再発見・発信することで、観光促進のみならず、シビックプライドの醸成や関係人口などが創出されている

新たな産業の創出

- 起業Labから起業家が誕生し、陸上養殖事業などの新たな産業が創出されている
- 耕作放棄地の有効利用が進み、農業振興が図れている

関係人口の拡大とプロジェクトの創出

- 大麻町に関わりたい人が主体的に活動できる環境を整えることで、地域の福祉の向上に繋がる住民主体の様々な事業が生み出されている

取り組みの方向性

時期
●短期…概ね５年以内　●中期…概ね10年以内
●長期…それ以降　　単位：千円

取り組み	生活利便性の確保	産業振興	地域コミュニティの活性化	観光振興	時期	概算事業費
トレーラーハウスを活用した買い物場所等整備事業（社会実験）	○	○	○	○	短期	
デマンド交通を中心とする移動支援の充実	○	○	○	○	短期	
（仮称）大麻マルシェの開催	○	○	○	○	短期	
地域おこし協力隊や地域の力を活用したシティプロモーションとプロジェクト運営サポート		○	○	○	短期	
「ＯＴＡＮＩ」×「ＯＴＡＮＩ」夢ボールプロジェクト		○	○	○	短期	
（仮称）大麻町防災センター整備事業	○		○	○	短期	
板東駅舎再構築事業	○		○	○	短期	
「窯元×蔵元」共創事業		○	○	○	短期	
大麻町未来継承事業		○	○	○	短期	
大麻分署跡地の活用	○		○		中期	
空き家活用×エリア価値創出事業	○	○	○	○	中期	
起業Ｌａｂづくり		○	○		中期	
耕作放棄地の活用		○	○		中期	
デジタル技術を活用した新しいコミュニティの研究・検討	○	○	○	○	中期 長期	

※ここに掲載している事業は、まちづくりの方向性を示す具体例や可能性として例示したものであり、現時点で実施を決定しているものではありません。今後、地域住民の意見や関係者との協議を踏まえながら、具体化を検討していきます。
※各事業の財源には、企業版ふるさと納税等を充当するなど、今後事業費の精査と併せて検討を進める予定です。

目次

CONTENTS

1　目指すまちづくり …… 4

2　短期的プロジェクトの概要 〉〉〉 …… 19

3　中期的プロジェクトの概要 …… 34

4　まちづくりの新しいカタチの検討 …… 40

5　今後の検討の流れ …… 45

6　参考資料 …… 47

02

短期的
プロジェクト
の概要

短期的プロジェクトの概要　①トレーラーハウスを活用した買い物場所等整備事業

生活利便性　産業振興
地域コミュニティ　観光振興

はじまり
- 買い物・立ち寄りという日常行動のはじまり
- 外に出る、顔を合わせるという暮らしの動きのはじまり

醸す
- 生活利便性×地域コミュニティ⇒買い物を契機に、顔の見える関係を生みだす
- 生活利便性×産業振興⇒買い物支援の実証から新たな事業の芽を育てる
- 産業振興×観光振興⇒地域資源を活かした商品が町を訪ずれる理由となる
- 地域コミュニティ×観光振興⇒日常の魅力が外部へ発信され、来訪者を増やす

企業版ふるさと納税の活用や、民間投資によるトレーラーハウス店舗（スーパーや飲食店など）を設置する社会実験から開始

移動可能なトレーラーハウスの利点を活かし、立地や商品構成などのマーケティングを実施

目指す姿：まずは官民連携による社会実験を展開し、民間投資を呼び込む

【ポイント】
暮らす人、訪れる人が楽しみ、満足する店づくり

トレーラーハウス保有

1　鳴門市保有 【企業版ふるさと納税活用（物納）】

寄付者 → 物納 → 鳴門市（NARUTO City Official Web Site） → トレーラーハウスを貸出

- 鳴門市との連携による社会実験を実施する事業者を公募
- 鳴門市がトレーラーハウスを貸出し、公募者が運営
- 企業版ふるさと納税の現金納付による取組も検討

2　民間事業者保有

- 社会実験の結果を踏まえながら、トレーラーハウス店舗事業を実施する事業者への働きかけを検討
- 事業者は、スーパー等の事業を実施

社会実験運営（案）

民間事業者

スーパー

飲食店・物販

スーパーイメージ

- 生鮮品、総菜等の食品や日用品を販売

飲食店・物販イメージ

- スイーツやパンが主役のベーカリー・カフェ
- 子どもの遊び場　等

※現時点でのイメージであり、今後の関係者との協議や進捗状況等に応じて内容に変更がある可能性があります

整備イメージ

※現時点でのイメージであり、今後の関係者との協議や進捗状況等に応じて内容に変更がある可能性があります

内装イメージ

※現時点でのイメージであり、今後の関係者との協議や進捗状況等に応じて内容に変更がある可能性があります

内装イメージ

※現時点でのイメージであり、今後の関係者との協議や進捗状況等に応じて内容に変更がある可能性があります

短期的プロジェクトの概要　②デマンド交通を中心とする移動支援の充実

生活利便性　産業振興
地域コミュニティ　観光振興

はじまり
- 移動に困っている人の外出機会の支援
- 高齢者・子育て世代のコミュニティ参加のはじまり

醸す
- 生活利便性×地域コミュニティ⇒移動機会の増加により交流が活発化
- 生活利便性×産業振興⇒外出機会の増加が地域消費を創出
- 生活利便性×観光振興⇒生活交通のほか、地域外を繋ぐ回遊性の向上
- 地域コミュニティ×観光振興⇒地域への来訪が増え、町の魅力が広がる

住民ニーズ調査や交通利用実態データに基づき、生活実態に即した交通課題を明らかにする

買い物・通院など日常生活に必要な移動先への交通空白解消や広域移動支援の実現に向け、デマンド交通などの導入に向けた具体的検討や試行準備を進めるとともに、将来的なAI・自動運転の活用も視野に入れる。
また、タクシーチケットの活用も地域ニーズ等も踏まえ検討する。

※現時点でのイメージであり、今後の関係者との協議や進捗状況等に応じて内容に変更がある可能性があります

短期的プロジェクトの概要　③（仮称）大麻町マルシェ開催

生活利便性　産業振興
地域コミュニティ　観光振興

はじまり
- 地域住民・事業者などが集まるきっかけ
- エリア価値創出の入口

醸す
- 地域コミュニティ×産業振興⇒住民・事業者などの交流により商いが育つ
- 産業振興×観光振興⇒地元食材や文化が体験コンテンツとして磨かれる
- 地域コミュニティ×観光振興⇒地域の誇りや魅力が内外に発信される
- 生活利便性×地域コミュニティ⇒日常的に立ち寄れる交流拠点が生まれる

大麻町での定期的なマルシェ開催を通じて、地域住民が自然に集い、顔を合わせ、関係を育む居場所を創出し、エリア周辺の価値向上に取り組む

道の駅「第九の里」やＲ９年度整備予定の（仮称）大麻町総合防災センターなど、色々な空間での実施を検討しながら、定期的なマルシェ開催に繋げる

マルシェアイデア（案）

定期開催　野菜マルシェ
- 規格外野菜、有機野菜等の野菜を中心に、肉・魚介及び加工品が並ぶ

定期開催　屋台横丁
- 飲食スペースを併設した、移動式屋台をつくり、鳴門市及び県内の飲食店が出店

定期開催　発表会体験
- 学生や地域の団体による歌やダンスの発表会、練習の場や、体験型マルシェとして利用

不定期開催　コーヒーフェス
- 徳島県内及び全国の有名なロースターが集結（R7.5に徳島市で開催し大盛況）

【ポイント】
- デマンド交通の利用
- 暮らす人が楽しみ、商う人が商売し、訪れる人の目的地となる場をつくる

※現時点でのイメージであり、今後の関係者との協議や進捗状況等に応じて内容に変更がある可能性があります

短期的プロジェクトの概要　④地域おこし協力隊や地域の力を活用したシティプロモーションとプロジェクト運営サポート

生活利便性　産業振興　地域コミュニティ　観光振興

はじまり

- 外部視点の導入と行動力によるプロモーション
- 地域の魅力の再発見

醸す

・産業振興×地域コミュニティ⇒地域の魅力発信により、関係人口や町への愛着が広がる
・観光振興×地域コミュニティ⇒地域の魅力発信により、関係人口が増え交流が生まれる
・産業振興×観光振興⇒地域の魅力発信により、来訪者が増えることで消費が生まれる

大麻町に特化した情報発信のための媒体が無く、良さや魅力が地域内外に知られていない

住み続けたい・訪れたい・関わりたいと思っていただける「まちづくり」に向け、地域住民とともに町や住民の魅力を、ＳＮＳやイベントを通して内外へ発信する

トレーラーハウス店舗や空き家活用など、プロジェクトの運営サポートを実施

地域おこし協力隊・地域・地方公共団体

※現時点でのイメージであり、今後の関係者との協議や進捗状況等に応じて内容に変更がある可能性があります

短期的プロジェクトの概要　⑤「ＯＴＡＮＩ」×「ＯＴＡＮＩ」夢ボールプロジェクト

はじまり

- 「大谷(地名・産地)」が「ＯＴＡＮＩ(世界的文脈)」と接続することで、地域の誇り・発信のスイッチが入る
- 住民・事業者・若者が「自分ごと」として関われる
- 外部(全国・世界)に向けて、大麻町の物語を語りはじめるプロモーションの起点になる

醸す

- 地域コミュニティ×産業振興⇒地域活動により、大谷焼のブランド価値が創出
- 産業振興×観光振興⇒大谷焼そのものが、体験型コンテンツとして広がる
- 地域コミュニティ×観光振興⇒地域の魅力発信により、町への訪問が生まれる

教育×文化×野球の市民参加事業（イメージ）

STEP01 事業の出発点

鳴門の地域資源

- 大谷焼き（伝統工芸）
- 子ども達の夢
- 野球

STEP02 事業内容

事業の流れ

① 夢を描く
- 大麻町の子ども達が将来の夢を言語化

② 夢を焼く
- 大谷焼に夢を描き焼き上げる

③ 夢を届ける
- 文化・教育事業として、大谷選手に届ける
- 世界へ発信

STEP03 事業効果

見える効果

① 教育効果
- 郷土愛の醸成
- キャリア教育の深化

② 文化・産業効果
- 大谷焼の認知度向上
- 「工芸×スポーツ」の新たな価値

③ 観光、経済効果
- 来訪動機の明確化
- 体験型観光・消費の増加
- 「ふるさと納税」による、関係人口の拡大

※現時点でのイメージであり、今後の関係者との協議や進捗状況等に応じて内容に変更がある可能性があります

短期的プロジェクトの概要　⑥（仮称）大麻町総合防災センター整備事業

はじまり

- 災害時のためだけでなく、日常から使われる“フェーズフリー”な拠点として安心して集まれる・学べる・つながれる暮らしの入口をつくる
- 健康・子育て・地域活動へと関与が広がる参加の入口になる

醸す

- 生活利便性×地域コミュニティ⇒日常利用の積み重ねが、そのまま非常時の強さになる＝共助力の向上
- 地域コミュニティ×産業振興⇒地域交流の場として活用され、町の魅力を域外に届ける
- 生活利便性×観光振興⇒訪れる人にとっても安心を与える拠点として、地域の安心と魅力を高める

防災センターは、地域住民が安心して暮らせる防災機能等を有するとともに、日常時から地域住民等に親しまれ、様々な人が交流することができる施設を目指します。（Ｒ９年度末整備予定）

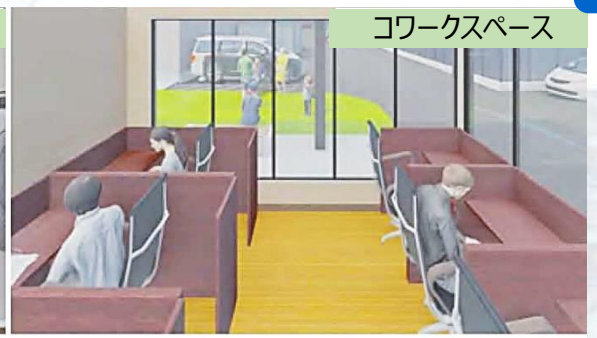
施設	日常時	非常時
スポーツジム	健康増進やコミュニティの活性化を図る	シャワールームが避難者の衛生環境を整える、避難場所となる
コインランドリー	快適で過ごしやすい生活を提供する	洗濯機能の提供のほか、避難場所となる
コワークスペース	仕事や学び、交流の場などのオフィス環境を提供する	個別の配慮が必要な方の避難場所となる
キッズスペース・ロフト	子育て世代の来訪促進や図書機能のある子どもの遊び場となる	避難場所となる
子ども学習室	学生などが利用できる自習スペースとなる	避難時の子どもの居場所、避難場所となる
大会議室・多目的室	会議室やイベントなど、市民交流の場を提供する	災害時の司令塔として災害対策本部となる
屋外テラス	多目的に利用できる広場となる	災害ベンチを利用した炊き出しができる 大型車も寄り付ける配慮であり、物質の仮置きができる
消防車庫	消防車両が市民に安心感をあたえる	前面道路に面しており、見通し良く安全で円滑出勤を行う

※現時点でのイメージであり、今後の関係者との協議や進捗状況等に応じて内容に変更がある可能性があります

整備イメージ

非常時にもシャワーが使えるスポーツジム

避難場所にもなるコインランドリー



プライバシー配慮や隔離ができるコワークスペース

県産木材を使用したぬくもりあるキッズスペース

見通しの良い２階ロフトのキッズスペース

非常時に子どもの居場所になる子ども学習室

見通しの良い建具で構成された大会議室・多目的室

炊き出しができる屋外テラス

前面道路に沿った緊急車両の出動動線

※現時点でのイメージであり、今後の関係者との協議や進捗状況等に応じて内容に変更がある可能性があります

短期的プロジェクトの概要　⑦板東駅舎再構築事業

板東駅舎については、築９０年以上が経過し、老朽化や耐震性の観点から、ＪＲ四国より安全性や維持管理の観点から解体について打診されている。

歴史的・文化的価値の継承とコミュニティ機能を有し「まちの顔」として、建て替え等の検討を進める。

○外壁の腐食、浮き

定期的な点検と、随時の修繕により駅舎の安全を確保している

○土台の腐食、浮き

※現時点でのイメージであり、今後の関係者との協議や進捗状況等に応じて内容に変更がある可能性があります

短期的プロジェクトの概要　⑦板東駅舎再構築事業

はじまり

- 駅を単なる交通施設ではなく、遍路・第九・地域の暮らしへつながる入口にする
- 「降りた瞬間に始まる」まちとして、来訪の最初の一歩

醸す

- 生活利便性×地域コミュニティ⇒駅を核に、交流や活動が生まれエリア価値が醸成される
- 生活利便性×観光振興⇒霊山寺や遍路への玄関口として来訪者の滞在と回遊を広げる

リノベーション

現在の板東駅舎を補強・修繕し、内装をリノベーション

or

建て替え

バラッケ（板東俘虜収容所）等をモチーフに建て替え

※現時点でのイメージであり、今後の関係者との協議や進捗状況等に応じて内容に変更がある可能性があります

短期的プロジェクトの概要　⑧「窯元」×「蔵元」共創コンテンツ創出事業

はじまり

- 「発酵(蔵) ×器(窯)」という大麻町らしい文脈で、新しい商品・体験・物語の起点が生まれる
- 外部に向けて「大麻町は“はじまり”を醸す町だ」と示せる分かりやすい象徴例になる

醸す

- 産業振興×観光振興　⇒蔵と窯の“連携”が深まることでブランドの厚み(信頼・物語・継続性)が育つ
- 産業振興×地域コミュニティ⇒共創が起点となり、他分野(農、観光、教育)へ連鎖する地域内循環・担い手の芽が醸成される
- 観光振興×地域コミュニティ⇒大麻町らしさが発信されることで、シビックプライドの醸成を図る

企業版ふるさと納税を活用し、伝統×革新をテーマとした大谷焼の価値創造につながる事業を創出
「窯元×蔵元×専門家」によるプロジェクトチームを組成し、ブランディング・マーケティングなどを進める

座組

寄付者 → 企業版ふるさと納税 → 鳴門市 NARUTO City Official Web Site →

「窯元×蔵元」
共創事業の創出プロジェクト

窯元 × 蔵元 × 専門家

目的

1. 共創のコーディネート
2. ブランディング
3. マーケティング
4. プロモーション
5. 販路開拓

※現時点でのイメージであり、今後の関係者との協議や進捗状況等に応じて内容に変更がある可能性があります

⑨大麻町未来継承事業

はじまり

- 地域の歴史や文化、まちづくりの足跡をたどる
- これまでの歴史を知り、未来のまちづくりにつなげる

醸す

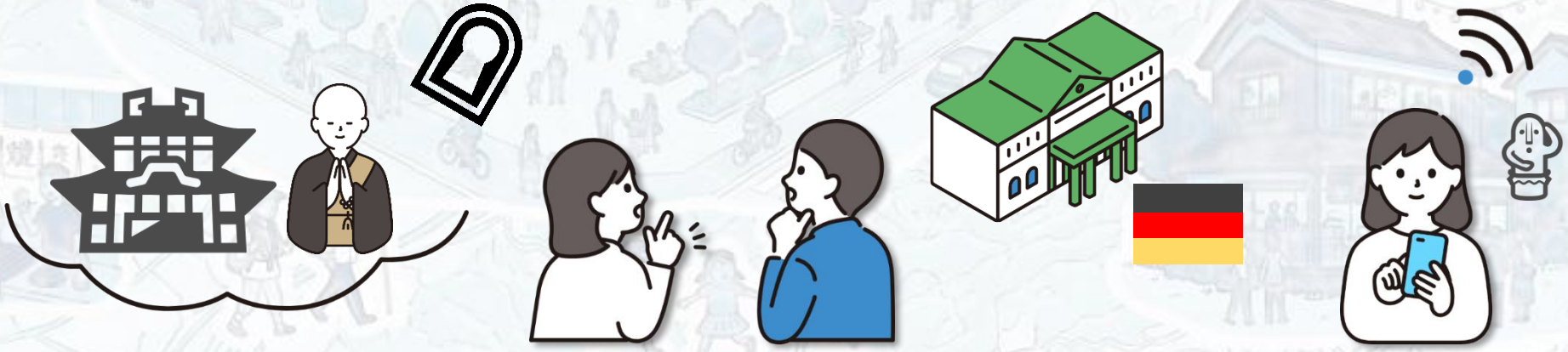
- 産業振興×地域コミュニティ
  ⇒ 地域の魅力再確認により、町への愛着や新しい交流が生まれる
- 観光振興×地域コミュニティ
  ⇒ 地域の魅力再確認により、町への興味・関心が増え関係人口が増える

多くの歴史文化資源や史実を有しており、その魅力の再発見や歴史的・文化的特徴を活かしたまちづくりの可能性を秘めている

歴史資料の収集や現地調査などを踏まえ、古代からの歴史や成り立ちなどを深掘りする

町の成り立ちを地域が共有し、愛着を深める。また、内外にその魅力を発信する

研究結果をまちづくりに活かすことで、より一層、町の魅力向上につなげていく



※ 今後の関係者との協議や進捗状況に応じて内容に変更がある場合があります

目次

CONTENTS

1　目指すまちづくり …… 4

2　短期的プロジェクトの概要 …… 19

3　中期的プロジェクトの概要 〉〉〉 …… 34

4　まちづくり新しいカタチの検討 …… 40

5　今後の検討の流れ …… 45

6　参考資料 …… 47

03

中期的
プロジェクト
の概要

中期的プロジェクトの概要　①起業Labづくり

はじまり
・地域課題の解決や新しい挑戦に取り組む人が集まり事業アイデアや製品づくりに挑戦できる環境が生まれる

醸す
・産業振興×地域コミュニティ⇒新しい産業の芽が育ち、挑戦する人同士の繋がりの醸成や担い手が育つ

官民連携による、空き家などを活用した、地域課題解決を目的とした事業や製品づくりをサポートする「起業Labづくり」

起業や事業アイデアの具現化を目指す「起業Ｌａｂ」と、新たな製品づくりをサポートする「ものづくりＬａｂ」を設置

利用対象者

- 利用対象者は、大麻町民や大麻町に関わり地域課題解決を目指す事業者等

目指す効果

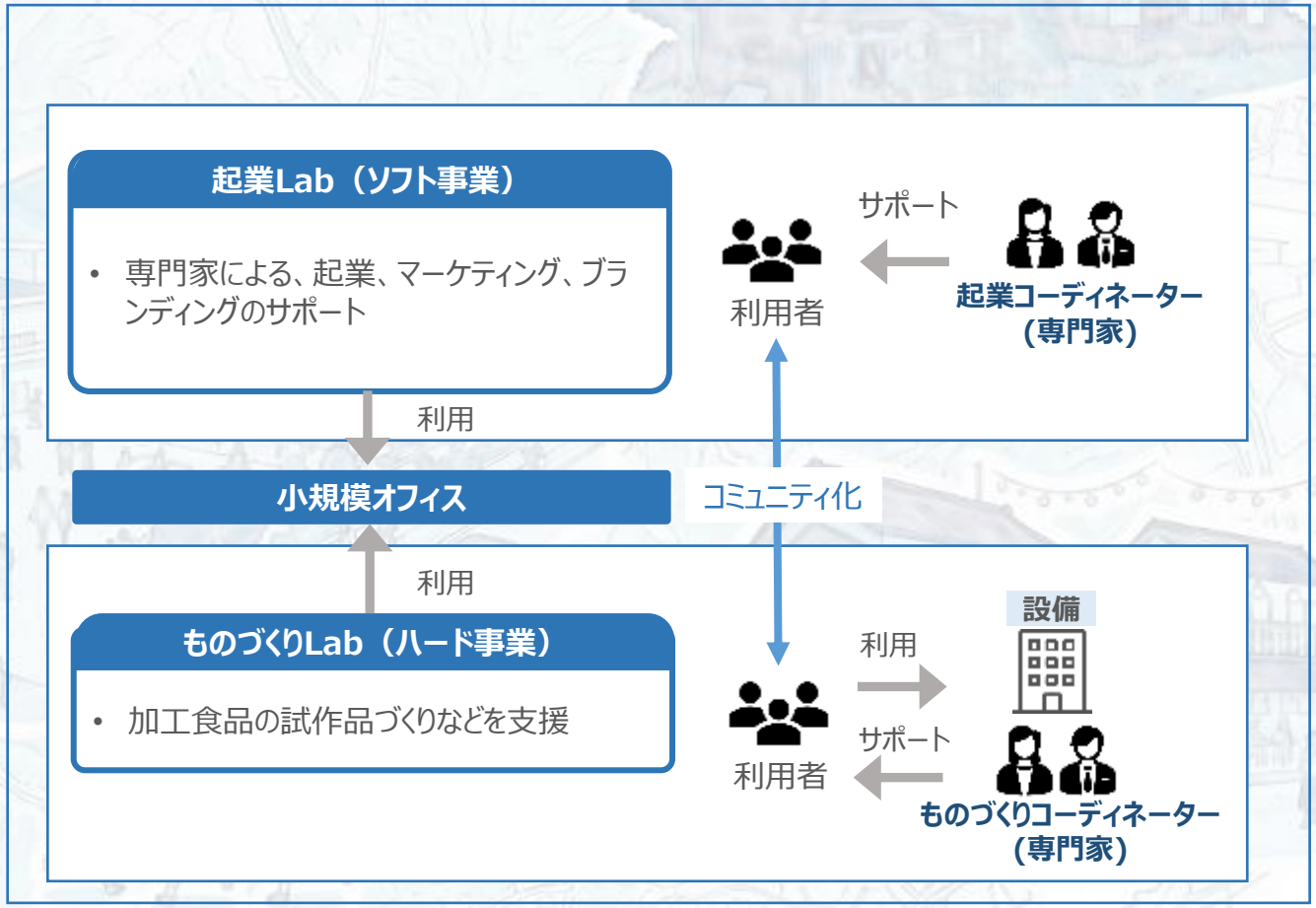
起業を目指す人や地域資源を活用した事業に取り組む人が集まり、専門家の支援を受けながら事業アイデアの実現や製品づくりに挑戦できる環境づくりを目指す。

この取組を通じて、
- 新しい産業の芽を育てる
- 挑戦する人材を育成する
- 地域内のつながりを生み出す

ことを目指す。

※具体的な事業内容については、今後の関係者との協議等により検討する。

運営概要イメージ



※現時点でのイメージであり、今後の関係者との協議や進捗状況等に応じて内容に変更がある可能性があります

中期的プロジェクトの概要　②耕作放棄地の活用

はじまり
- 放置されていた土地の再利用の一歩
- 農業・交流・実験的利用の開始

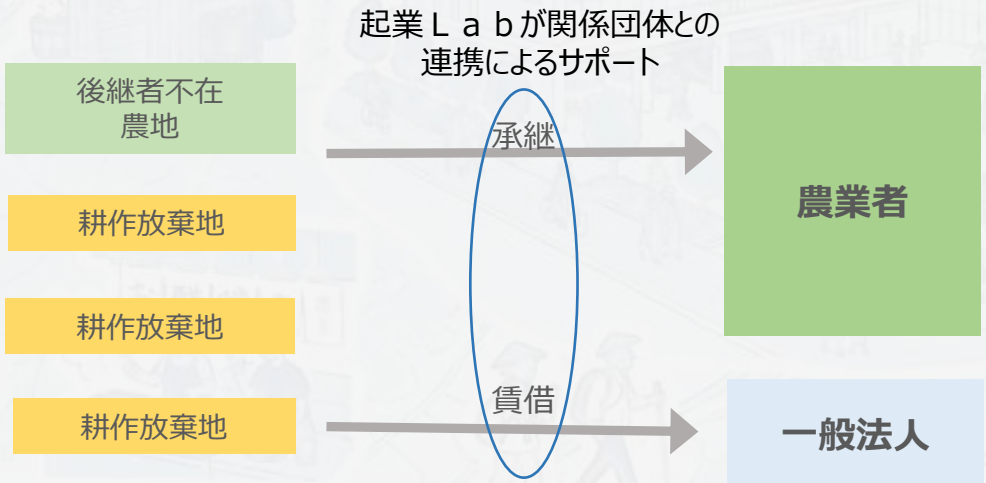
醸す
・産業振興×地域コミュニティ⇒新規就農などの担い手が育ち、農業を通じた交流やコミュニティが広がる

【地域農業の承継】　新規就農者づくりにより、れんこん・水稲栽培の承継、こうのとりブランドなどの振興を推進

【新事業への挑戦】　農地を利用した陸上養殖、新たな農業品目の栽培など新しい事業への参入を検討

【地域農業の承継】

堀江地区地域計画（令和7年3月）	板東地区地域計画（令和7年3月）
・今後規模縮小などの意向あり　9.8ha	・今後規模縮小などの意向あり　6ha
・70歳以上の農業者の農地　55ha（うち後継者不在14.7ha）	・70歳以上の農業者の農地　57ha（うち後継者不在13.9ha）
・遊休農地　11ha	・遊休農地　23ha



【取組概要】

- 担い手不足などにより増加している耕作放棄地については、地域資源としての活用を検討する。
- 起業Labなどとの取組と連携しながら、農業や地域資源を活用した事業に挑戦する人材を受け入れるとともに、起業Labが関係団体と連携しながら農地と挑戦する人をつなぐ役割を担い、基幹産業である農業の振興やビジネスの創出につなげていく。
- こうした取組を通じて、農地の有効活用とともに、新しい産業や人の流れを生み出し、地域のにぎわいを創出していくことを目指す。
- また、担い手が見つからないなど、基幹産業での活用が難しい場合は、陸上養殖など、別途新しい事業を検討し、官民連携での取組を目指す。

※現時点でのイメージであり、今後の関係者との協議や進捗状況等に応じて内容に変更がある可能性があります

中期的プロジェクトの概要　③大麻分署跡地の活用

はじまり

- 「使われない場所」を「始められる場所」に転換し、地域内の挑戦の入口を増やす
- 行政がまず“使ってみせる”ことで、民間や地域が参画しやすい最初の一歩をつくる

醸す

- 産業振興×地域コミュニティ⇒地域課題の解決や新たしい取組の場となり、地域の担い手や挑戦が広がる

（仮称）大麻町総合防災センターの整備後における大麻分署跡地の活用方法については決まっておらず、今後の検討事項。

（仮称）大麻町総合防災センターとの連携促進など、地域住民の方のご意見もいただきながら、利活用方法を考えていく。

※現時点でのイメージであり、今後の関係者との協議や進捗状況等に応じて内容に変更がある可能性があります

中期的プロジェクトの概要　④空き家×エリア価値創出事業

はじまり
- 使われていなかった場所での活動の再開
- 移住・起業・挑戦の入口

醸す
- 生活利便性×地域コミュニティ⇒身近な場に活動が生まれ、交流が広がる
- 生活利便性×観光振興⇒滞在機能により、地域で過ごす時間が増える
- 産業振興×観光振興⇒地域資源による食・体験などのビジネスがうまれる
- 産業振興×地域コミュニティ⇒新しい挑戦が生まれ、担い手が育つ

『地域の特徴を活かしたアセットづくり × 大麻町をめぐる観光及び体験コンテンツ』による“賑わい創出”と“観光振興”

官民連携事業として推進

板東駅、霊山寺、(仮称)大麻町総合防災センターを結ぶエリア等の空き家活用を検討

座組

寄付者 → 企業版ふるさと納税 → 鳴門市 NARUTO City Official Web Site

「空き家活用」共創事業の創出

空き家所有者 × 民間プレイヤー × 専門家

→ リノベーションし事業運営 → 空き家

地域企業

連携

大谷焼窯元
酒・醤油蔵元
飲食店
宿泊施設
農家
ドイツ館等
地域内外企業

- 地域企業が、様々な役務を提供
- コト・モノ消費に加え、トキ消費を共創し、関係人口の創出を図る

※現時点でのイメージであり、今後の関係者との協議や進捗状況等に応じて内容に変更がある可能性があります

目次

CONTENTS

1　目指すまちづくり …… 4

2　短期的プロジェクトの概要 …… 19

3　中期的プロジェクトの概要 …… 34

4　まちづくりの新しいカタチの検討 〉 〉 〉 …… 40

5　今後の検討の流れ …… 45

6　参考資料 …… 47

04

まちづくりの
新しいカタチの検討

「デジタル技術」の活用によるまちづくりの検討

- 住民と関係人口連携による新しいまちづくりのカタチ -

ＤＡＯとは　①概要

はじまり

- 意思決定への参加
- 立場を超えた関与の入口

醸す

- ●生活利便性×地域コミュニティ ⇒ 地域課題を共有し、暮らしを支える助け合いの取組が生まれる
- ● 生活利便性×観光振興 ⇒ 地域内外の人の関わりが広がり、交流や滞在の機会が生まれる
- ● 産業振興×観光振興 ⇒ 地域資源を活かした商品・体験・サービスが生まれる
- ● 産業振興×地域コミュニティ ⇒ 新たな挑戦や事業の芽が生まれ、担い手が育つ

DAO（Decentralized Autonomous Organization：分散型自律組織）とは

新たな組織運営＆資金調達の仕組み

- **特定のリーダーや管理者を置かず、参加者が対等な関係で、自律かつ分散的に運営される組織形態**
- 取締役会や社長といった経営者が意思決定する、「会社組織」とは違い、**メンバー全員で意思決定を行う**
- 参加者には株式ではなく**トークン**が割り当てられ、**意思決定の投票などに使う（投票権は出資額にかかわらず、ひとり１票）**
- DAO内の事業への貢献度に応じた報酬が**トークン**で還元され、施設の利用券などで使用できる
- 収益を配当する仕組みをつくることも可能

既存の株式会社		DAO（自律分散型組織）
中央集権でトップダウン	組織と意思決定	参加メンバー全員で意思決定
基本的に非公開	情報の透明性	全ての参加者に公開
限定された社員	働く人	誰でも参加可能
現金で支給	報酬	独自トークンで支給

ポイント

投票などの取引は、ブロックチェーンとスマートコントラクトを使用することで、人が介在することなく取引が可能

ブロックチェーンとは
ネットワーク上で、「ブロック」と呼ばれるデータを「チェーン（鎖）」のようにつないで記録する仕組み。記録したデータの消去や改ざんができない、デジタル帳簿のようなもの。
（例）仮想通貨、トレーサビリティ（いつ、どこで、だれが作ったか等の記録）など

スマートコントラクトとは
あらかじめ決めたルールに従って、契約や取引を自動的に実行するプログラムのこと。
（例）自動販売機
・150円を入れてボタンを押すというルールに基づき、飲み物がでてくる（実行）

ＤＡＯとは　②事例　- 身の丈商店街DAO（香川県三豊市）-

プロジェクト開始日：2025年７月22日　　募集締切：2025.９月末　　参加者数：118/400名
累計調達額　　：￥14,800,000-（目標額：￥40,000,000-）
投資特典　　：宿泊施設の宿泊券（年間5泊分を10年間）
スナックでのハイボールが1杯無料
収益金の一部を配当

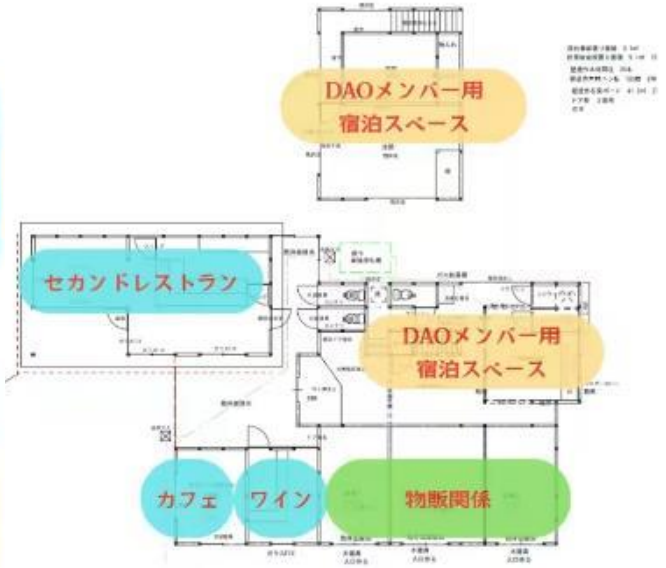
2026.1.27時点
参加者　132名
調達額　17,500千円

参加者属性

首都圏	39.8%
香川県	25.4%
その他四国	4.3%
中部	7.6%
北海道・東北	8.5%
近畿	5.1%
中国	5.1%
九州	4.2%

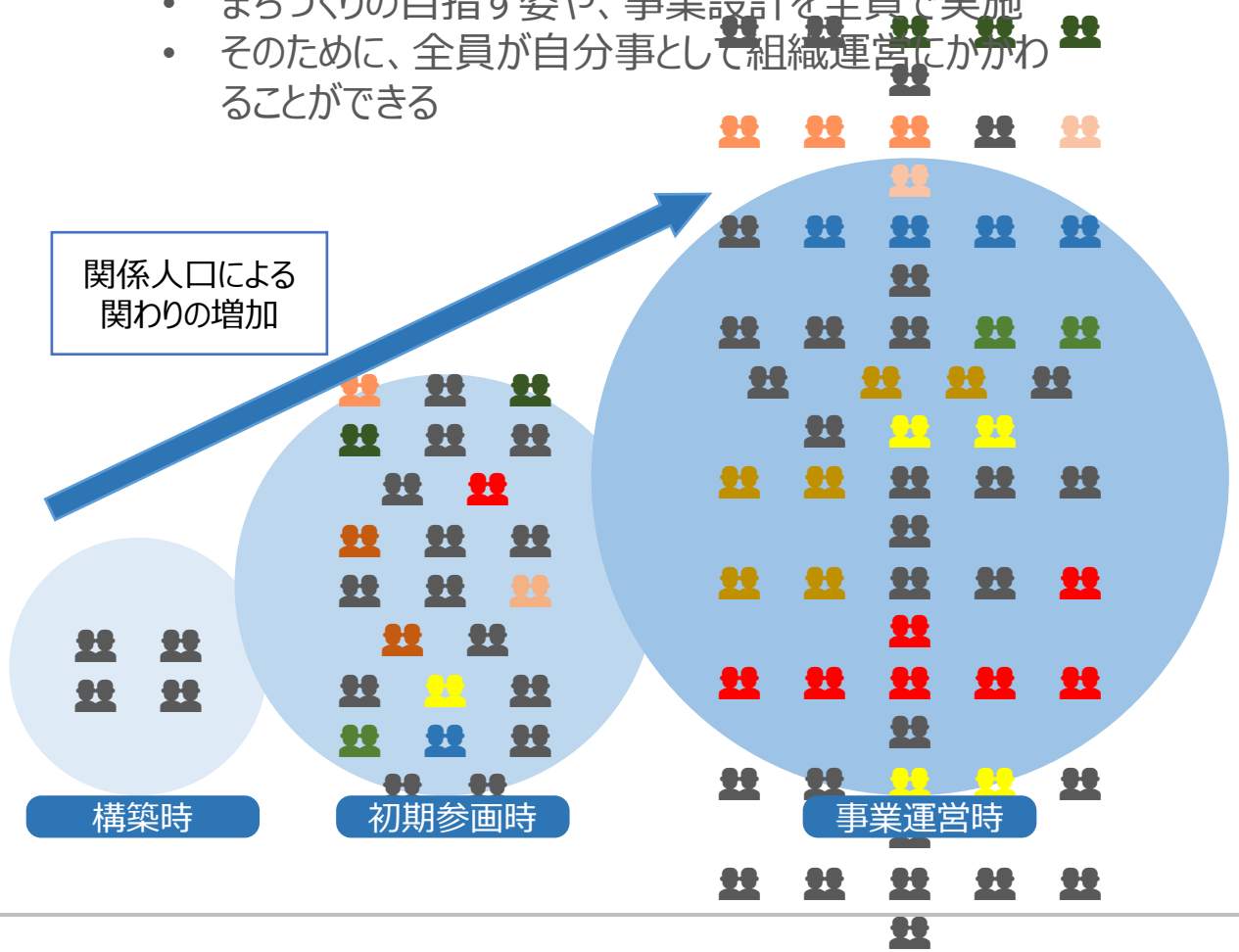
「身の丈ストリート」は日本初の商店街DAO

- 香川県三豊市仁尾町にて、民間事業者が株式会社型DAOを活用し実施する、商店街を中心とした地域再生事業
- 地域住民と関係人口が共につくる'新しい商店街の在り方'を提案することを目的とした、空家のリノベーションとDAOによる共助型運営を組み合わせた地域再生モデル



大麻町のまちづくりやプロジェクトと関わりたいと思う、多様な人材が参画できる “関わりしろ” となり「一人ではできないプロジェクトをみんなで実現する」

- 参画者（出資者）全員で事業運営を実施
- まちづくりの目指す姿や、事業設計を全員で実施
- そのために、全員が自分事として組織運営にかかわることができる



ＤＡＯを検討する理由

人口減少が進む中、地域づくりは行政が行うだけでは維持が難しくなっています。
一方で、大麻町には
- 地域に関わりたい住民
- 移住者
- 地域外の関係人口
- 専門性を持つ人材

など、多様な人材が存在しています。

しかし、これらの人材が継続的に関わる仕組みは十分に整っていませんが、ＤＡＯは「関わりたい人が継続的に関わる仕組み」です。

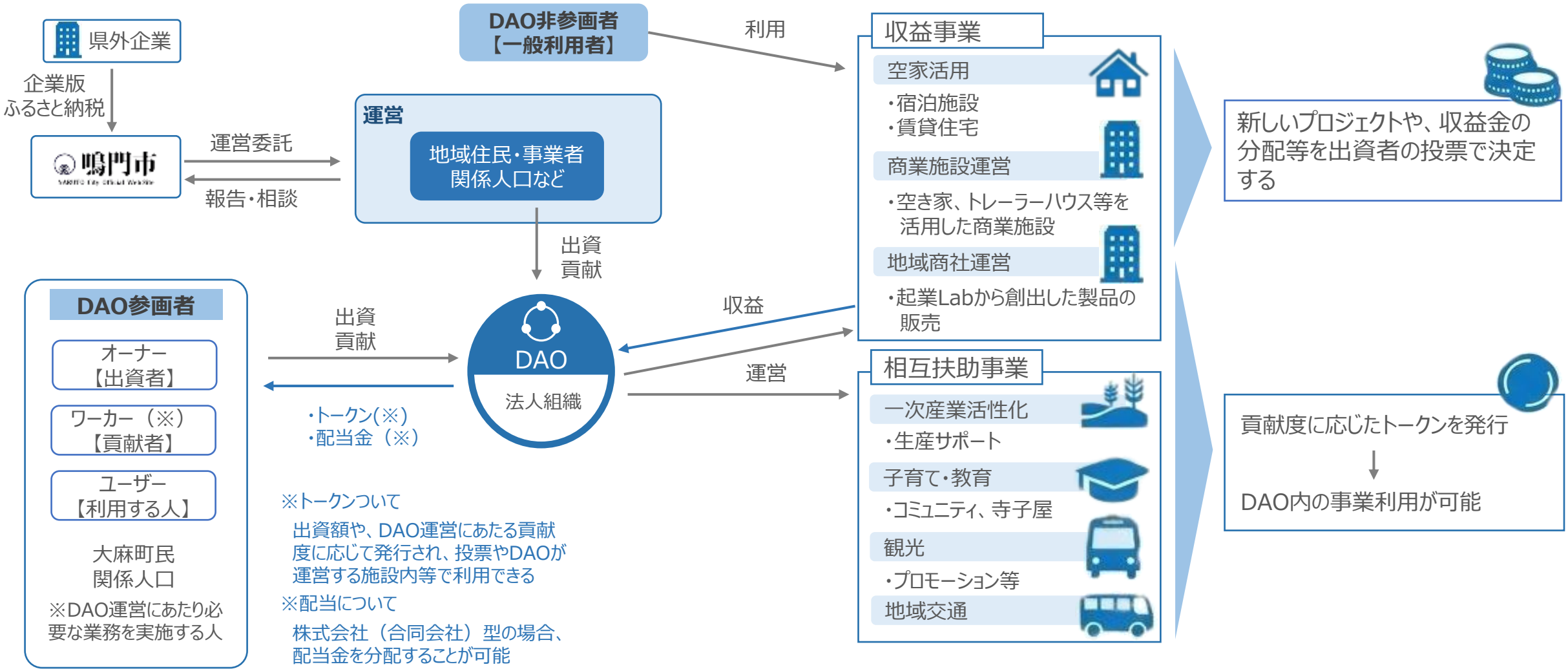
DAOは
- 参加
- 出資
- 貢献
- 利用

を組み合わせた仕組みであり、
住民・関係人口などが共に関わる仕組みとして
活用する可能性を検討します。

※具体的な仕組みは今後、専門家や関係者と実現可能性を検討します。

ＤＡＯ設立のアウトライン

鳴門市が企業版ふるさと納税を活用し、官民連携によりＤＡＯを組成



※現時点での方向性のイメージであり、今後の関係者との協議や進捗状況等に応じて内容に変更がある可能があります

目次

CONTENTS

1　目指すまちづくり …… 4

2　短期的プロジェクトの概要 …… 19

3　中期的プロジェクトの概要 …… 34

4　まちづくりの新しいカタチの検討 …… 40

5　今後の検討の流れ 〉 〉 〉 …… 45

6　参考資料 …… 47

05

ロードマップ

今後の検討の流れ　- 堀江エリア・板東エリア・両エリア共通 -

本ロードマップは、各施策の実施を確定するものではなく、今後の検討・調整の方向性を示すものである。実施段階への移行については、関係者協議や事業主体の整理等を踏まえ、個別に判断していく

両エリア共通
堀江エリア
板東エリア

事 業	スタート 令和９年度	5年目 令和14年度	10年目 令和19年度	20年目 令和29年度
トレーラーハウスを活用した買物場所等整備事業	社会実験	社会実験終了後、本格始動		
デマンド交通を中心とする移動支援の充実		技術革新に応じて、順次、自動運転などに移行		
（仮称）大麻町マルシェ開催	社会実験	社会実験終了後、本格実施		
空き家活用×エリア価値創出事業	調査・下準備	官民連携により推進		
起業Ｌａｂづくり	調査・下準備	官民連携により推進		
耕作放棄地の活用	調査・下準備	官民連携により推進		
地域おこし協力隊や地域の力を活用したシティプロモーションとプロジェクト運営サポート	市が募集（人材は定期的に更新）			
デジタル技術を活用した新しいコミュニティの研究・検討（ＤＡＯなど）	調査・下準備	関係人口の拡大・新プロジェクトの創出		
大麻町未来継承事業	調査	研究結果をプロジェクトに反映		
「ＯＴＡＮＩ」×「ＯＴＡＮＩ」夢ボールプロジェクト	夢ボールプロジェクト実施			
「窯元×蔵元」共創事業		官民連携により推進		
(仮称)大麻町防災センター整備事業	令和9年度末完成			
板東駅舎再構築事業		再築・運用開始		

※現時点でのイメージであり、今後の関係者との協議や進捗状況等に応じて内容に変更がある可能性があります

目次

CONTENTS

1　目指すまちづくり …… 4

2　短期的プロジェクトの概要 …… 19

3　中期的プロジェクトの概要 …… 34

4　まちづくりの新しいカタチの検討 …… 40

5　今後の検討の流れ …… 45

6　参考資料 …… 47

06

参考資料

大麻町未来づくり会議ワークショップでの主な意見とグランドデザインの方向性　- 観光振興・賑わい創出に関する意見 -

ＮＯ	委員意見	グランドデザインの位置づけ	整理の方向性
①	（仮称）大麻町総合防災センターに、観光案内や移住相談、空き家相談等を設置	○	大麻分署や板東連絡所跡地での対応を含め、検討を進める
②	大麻分署や板東連絡所跡地にチャレンジキッチンやお試し居住スペースを設置	◎	大麻分署や板東連絡所跡地での対応を含め、検討を進める
③	メディアやＳＮＳを活用した情報発信	◎	地域おこし協力隊や地域事業者等と連携しながらプロモーションの取組について検討を進める
④	ＧＷやシルバーウィークのシャトルバスの運行	○	Ｒ８年度に実施予定の住民ニーズ調査等に基づき、デマンド交通を中心とする移動支援の在り方を検討する中で、観光需要への対応も適宜検討する
⑤	ドイツ館周辺で第九を歌うなどのＰＲ強化	◎	（仮称）大麻町マルシェの中で第九の歴史発信を行うＰＲイベントについて検討を進める
⑥	道の駅「第九の里」の内装改装により体験機能を強化	○	（仮称）大麻町マルシェとの連携により、体験機能の充実に繋げ、その需要を踏まえながら内装改修に関して検討を進める
⑦	コウノトリ関連商品や大麻町グルメを新たにつくる	◎	空き家やトレーラーハウスを活用する中で地域事業者等と連携して検討を進める
⑧	空き家や空き店舗を活用して県内外から商売をしたい若者を誘致	◎	空き家やトレーラーハウスを活用する中で地域事業者等と連携して検討を進める
⑨	町内にビジネスホテルを誘致	○	まずは、空き家活用の中で簡易な宿泊機能の可能性について検討し、その需要等を踏まえ、民間事業者による実現可能性について調査・研究をしていく
⑩	池谷駅や板東駅、高速鳴門西パーキングエリアを活用して観光客の誘致を図る	○	駅やＰＡなどの交通結節点との連携を図りながら、地域おこし協力隊等によるプロモーションの取組について検討を進める
⑪	レンタカーやレンタサイクルを充実させる	○	Ｒ８年度に住民ニーズ調査や交通利用実態データに基づき、デマンド交通を中心とする移動支援の導入検討の中でレンタサイクル等の可能性の検討を進める
⑫	阿波神社の有効活用	○	地域おこし協力隊等によるプロモーションにより魅力発信の取組について検討を進める
⑬	大谷焼の蔵めぐりなど、大谷焼の魅力を発信	◎	「ＯＴＡＮＩ」×「ＯＴＡＮＩ」夢ボールプロジェクト、「窯元」 × 「蔵元」 共創コンテンツ創出事業により、大谷焼の魅力向上について検討を進める
⑭	温泉施設の整備	○	まずは空き家活用事業の中で民間事業者と連携し、滞在機能の整備を検討。その後、温浴施設の可能性について調査・研究していく
⑮	市街化調整区域などの都市計画の変更	―	現状でも実施可能な取組があることから、まずは現状を丁寧に説明させていただき、必要に応じて制度の活用や見直しの可能性について検討を進める

【凡例】
- ◎：グランドデザインに直接反映しているもの
- ○：代替的な取組等により趣旨を反映しているもの
- ―：他の計画・制度で対応するもの、国等の他の主体の進捗状況を踏まえ対応するもの、又は現状説明により対応するもの

大麻町未来づくり会議ワークショップでの主な意見とグランドデザインの方向性　- 産業振興・企業誘致に関する意見　-

ＮＯ	委員意見	グランドデザインの位置づけ	整理の方向性
①	休耕田を活用した陸上養殖	○	耕作放棄地を活用する中で実施可能性の検討を進める
②	国が進めている旧吉野川自然再生事業で公園を併せて整備	―	国としては河川事業のためコウノトリの餌場に適した湿地づくりを優先する方針であると確認している。今後の展開を注視していく
③	買い物機能の強化のため道の駅のリニューアルや場所を変更	○	道の駅の場所を変更するのではなく、移動支援の強化の検討や、トレーラーハウスの活用により買い物支援の充実に関する検討を進める
④	ＳＮＳなどを使った積極的なＰＲ	◎	地域おこし協力隊等によるプロモーションにより対応の検討を進める
⑤	道の駅「第九の里」の再整備	○	（仮称）大麻町マルシェを通して、魅力向上や機能充実の検討を進める
⑥	市街化調整区域の見直し	―	現状でも実施可能な取組があることから、まずは現状を丁寧に説明させていただき、必要に応じて制度の活用や見直しについて検討を進める
⑦	旧堀江公民館を活用する	◎	空き家などの既存ストックの活用を検討する中で地域事業者と連携しながら検討を進める
⑧	堀江で日用品が変える場所を整備する	◎	空き家やトレーラーハウス店舗を活用する中で地域事業者と連携して対応
⑨	民泊などにより観光客を循環させる	◎	空き家活用を検討する中で地域事業者と連携しながら検討を進める
⑩	大企業を誘致する	―	大企業の進出については、交通アクセスや企業の立地判断、用地規模など様々な要素に左右されるものであり、地域ではなく外部が主体となる取組である。 こうしたことから、本グランドデザインの直接の取組としては位置づけていないが、市全体の産業振興施策の中では重要な観点であることから今後の可能性について調査・研究に努めていく
⑪	国が進めている旧吉野川自然再生事業を川の駅にする	―	本事業は国が進めている自然環境の再生を目的とした事業であり、その進捗や方針を踏まえる必要がある。今後の展開を注視していく

【凡例】
- ◎：グランドデザインに直接反映しているもの
- ○：代替的な取組等により趣旨を反映しているもの
- ―：他の計画・制度で対応するもの、国等の他の主体の進捗状況を踏まえ対応するもの、又は現状説明により対応するもの

大麻町未来づくり会議ワークショップでの主な意見とグランドデザインの方向性　- 子育て支援・教育環境の充実に関する意見 -

ＮＯ	委員意見	グランドデザインの位置づけ	整理の方向性
①	子育て世帯の人たちが集まれる公園・飲食機能などの整備	◎	空き家活用やトレーラーハウス店舗、（仮称）大麻マルシェにより、子育て世代も利用しやすい交流拠点エリアの整備の検討を進める
②	子ども達が公共交通で市内を回れたり部活動に通えるように	◎	Ｒ８年度に住民ニーズ調査や交通利用実態データに基づき、デマンド交通を中心とする移動支援の導入について検討を進める
③	人口が減る中で小中一貫校の整備	―	学校再編などを検討する中で、教育環境の在り方の一つとして別途検討
④	津波が来ないエリアとしてアピール	◎	（仮称）大麻町総合防災センターの整備や地域おこし協力隊によるプロモーションにより検討を進める
⑤	ドイツなどの国際色の強さを教育に活かす	―	既に第九学習を取り入れているところであるが、来年度改正予定の教育振興計画の中で、実現可能性などを含め教育委員会にて検討する

【凡例】
- ◎：グランドデザインに直接反映しているもの
- ○：代替的な取組等により趣旨を反映しているもの
- ―：他の計画・制度で対応するもの、国等の他の主体の進捗状況を踏まえ対応するもの、又は現状説明により対応するもの

大麻町未来づくり会議ワークショップでの主な意見とグランドデザインの方向性　- 公共交通と移動支援に関する意見 -

ＮＯ	委員意見	グランドデザインの位置づけ	整理の方向性
①	鳴門線を廃止しシャトルバスで対応 シャトルバスは７０歳以上でも有料の方が良い	○	ＪＲ四国の動向に注視しながらＲ８年度に住民ニーズ調査や交通利用実態データに基づき、デマンド交通を中心とする移動支援の導入により検討を進める
②	池谷駅を引田駅のように改築する	―	ＪＲ四国は、より老朽化が著しい板東駅の建て替え等を優先している状況であり、現時点で池谷駅よりも板東駅での検討を優先している
③	タクシーチケットを配布する	◎	デマンド交通を中心に検討を進める中で、利用者ニーズ等も踏まえながら必要に応じてタクシーチケットの活用を検討する。
④	高速道路を降りる際に料金がかからない仕組みを導入	―	ＥＴＣ2.0搭載車限定で道の駅を利用する際にＩＣで一旦降りても料金が発生しない「賢い料金制度」については国による社会実験として行われている。今後の国の動向を注視していく
⑤	高校の学区制が廃止される中で鳴門線は残してほしい	―	地域の移動手段を確保する観点から、ＪＲ四国の動向を注視しつつ、デマンド交通の導入やタクシーチケットの配布などの移動支援を検討する
⑥	道路を整備してほしい	―	国・県・市の道路整備計画の中で必要性や優先度を踏まえ検討していく
⑦	レンタサイクルを充実してほしい	○	Ｒ８年度に住民ニーズ調査や交通利用実態データに基づき、デマンド交通を中心とする移動支援の導入を検討する。その中でレンタサイクルの可能性についても検討する

【凡例】
- ◎：グランドデザインに直接反映しているもの
- ○：代替的な取組等により趣旨を反映しているもの
- ―：他の計画・制度で対応するもの、国等の他の主体の進捗状況を踏まえ対応するもの、又は現状説明により対応するもの

大麻町未来づくり会議まちづくりワークショップでの主な意見 - 観光振興に関する意見 -

- **大麻町の目的地化。**
- **愛を核にした観光ブランディング（大麻は宇宙一の愛のパワースポット）の提案。**
  - ➡ 「愛」にまつわる観光資源例：賀川豊彦に関わる土地・ドイツ捕虜収容所・阿波神社・大麻比古神社・古墳・コウノトリ・「寂聴さんの鳴門山河」の跡地　等
- **キャッチコピーを補足するためのサブタイトル等の追加。**
  - ➡ キャッチコピーの意味が難しいので、それに対応する分かりやすいサブタイトルを検討するべきでは。
- **街歩き、散歩道等の設定とSNS発信。**
  - ➡ 観光地を選ぶ際に、若い県外客や外国人客は「SNSを見て来る傾向があるため、大麻町としてのアカウントづくりや映像発信が必要。
- **蛍、蓮根畑、梨の葉など自然景観を観光に活用。**
  - ➡ 「大谷川ホタル祭り」があまり知られていない。蓮根畑の景観や一面に広がる梨の葉の景色についても、十分に観光資源化されていない。
- **蓮根畑などの自然資源を活用した体験型イベントの提供。**
  - ➡ 自然資源の活用に関連して、蓮根畑で子どもたちが泥遊びをするようなイベント。自然資源（蛍や蓮根など）を有効活用したコンテンツを作る。
- **子どもが参加できる自然体験の提供。**
  - ➡ 板東谷川周辺で進む旧吉野川自然再生事業の活用。
- **まちを「自然の動物園」に見立てたアプローチ。**
  - ➡ フクロウ、コウノトリ、カメ、猿、イノシシなど、身近な自然を観察すること自体が観光コンテンツになる。

大麻町未来づくり会議まちづくりワークショップでの主な意見 - 観光振興に関する意見 -

- **霊山寺等を訪れる来訪者に対し、通常の札所巡りとは異なる回遊導線を提示。**

  ➡ 宝探しの地図のような案内図、「天国への蓮の道」「極楽の道」のような印象的な散歩コースの設定。

- **インバウンド対応と外国人来訪者への対応や交流を推進。**

  ➡ 外国人との交流機会創出、既存の巡礼動線に接続しながら大麻町内への滞在・回遊を推進する。

- **板東駅舎の存続・再整備に関する要望。**

  ➡ 板東駅は、一番札所、二番札所、大麻比古神社、ドイツ館、賀川豊彦など「人の集まる駅」であり、お正月や祭り、インバウンドの来訪もある特別な駅との認識。

- **賀川豊彦氏に関する顕彰・周知。**

  ➡ 地域内外で十分に認知されていない実態がある（地域の若者も「知らない」との意見あり）。地元の偉人を知ってもらうコンテンツを制作。

- **空き家活用（シェアキッチンや食資源の活用）の提案。**

  ➡ 若い人が土地から購入して出店することは費用面で難しいため、空き家活用は段階的・試行的な活用方法として有効では。

- **若年層向けアニメコラボ等の提案。**

  ➡ 寺院や八十八か所の資源と接続したアニメコラボの創設。特定の場所でアニメキャラクターと写真が撮れる企画の提案。

- **散歩道を活用した健康と観光・地域資源との接続。**

  ➡ 健康を意識した歩く観光、自然観察、散歩道づくり、犬の散歩道整備など。

- **松江所長旧居の保存と観光資源化。**

大麻町未来づくり会議まちづくりワークショップでの主な意見 - 産業振興に関する意見 -

- **地域における買い物の課題と懸念。**

➡ スーパーマーケットやコンビニへの希望が高い一方で、車利用を前提として、北島や藍住方面へ買い物へ向かう実態がある。

- **買い物支援の主対象の整理（交通弱者への支援）。**

➡ 高齢者の日常的な買い物機会は、徒歩圏または代替交通で確保される必要がある。

- **必要とされる品目は生鮮食品や日用品。**
- **常設店舗への需要と、実証実験としての仮設導入案の提案。**

➡ トレーラーハウス活用案が出たものの、常設性への期待も示された。初期投資や撤退リスクへの配慮から仮設導入の提案。

- **小型店舗誘致の提案。**

➡ 大規模スーパー誘致は難しいため、「現実的な案」では。

- **価格設定等（立地等利便性と価格競争力の両立）への意見。**
- **ベーカリー誘致への期待。ベーカリーと生鮮販売の複合店舗への期待。**

➡ 「パン屋にして、その一角で野菜も売る」、「ハイブリッドパン屋」として、ベーカリーを来訪動機とし、生鮮を生活必需機能として併設する構想。

- **「生存」のために必要なものと選ぶ「楽しさ」への意見。**

➡ 生活基盤としての買い物と、選ぶ楽しさを感じるような買い物とでターゲット整理が必要。

- **配送サービス・定期便の可能性と「手に取る」楽しさの両立への意見。**

➡ 個別訪問販売は、売り上げの予想が立ちやすくなるが、個別配送への全面転換するのではなく、店舗での商品選択の機会の確保との両立が望ましい。

大麻町未来づくり会議まちづくりワークショップでの主な意見 - 産業振興に関する意見 -

- **小売店実証実験を行う場合のポイント。**

➡ 仮設導入を行う場合、単に設置するのではなく、明確に検証項目を設ける必要がある。

- **立地への意見（歴史・文化資源との接続面等）。**

➡ 「車の客を取る場所」か「歩いて行ける場所」かで意見が大きく分かれた。幹線道路沿いへの出店は「駐車場のこと考えると適している」とされた一方で、住宅街から離れてしまう問題がある。

- **子ども・若年層を含めた多世代交流の必要性。**

➡ 買い物拠点を単なる高齢者福祉機能で終わらせず、多世代交流や地域滞在の場へ拡張する。

- **担い手に地域に根差すことを期待。**

➡ できる限り地元事業者または新規参入者が地域に根差して担うことが望ましい。

- **惣菜・パン・子どもが行ける場への期待（地域内での惣菜店の不足）。**
- **薬局型店舗への期待と追加の希望（鮮魚と惣菜）。**

➡ コンビニでは代替しきれない惣菜需要、直近でオープンした店舗での鮮魚や惣菜の調達を期待

- **地域消費による店舗存続への意見。**

➡ 住民が地域内で購買しなければ店舗は維持できず、店舗がなくなればさらに不便になる。既存店舗が撤退しないよう地域住民側にも意識改革が必要。

- **配食等の見守り機能を持つ事業者への支援。**

➡ 独居高齢者向けの弁当配食は見守り機能を果たしているため、そうした付加要素への助成を期待。

大麻町未来づくり会議まちづくりワークショップでの主な意見 - 生活利便性に関する意見 -

- **高齢者の足としての機能への要望。**

  ➡ 自宅からバス停までの距離、買い物帰りの荷物、雨天時の駅までの移動の苦労、自転車にいつまで乗れるかという不安の解消。

- **利用ニーズの少なさに対する意見（車社会における課題）。**

  ➡ 車依存が前提となっている地域構造の中では、柔軟性の低い仕組みは浸透しにくいのでは。

- **若年層を対象とするマッチングサービスの提案。**

  ➡ 飲み会、買い物、病院など異なる目的の人同士が相乗りできる仕組みの構築。

- **高校生の通学における自転車移動と鉄道接続の不便さへの意見。**

  ➡ 池谷駅までは本数があるが、板東方面との接続が不便。雨天時や試験期間中などの変則的な状況も課題がある。

- **コミュニティの希薄化による交通課題の深刻化への意見。**

  ➡ 交通を単独の制度問題としてではなく、地域の実態把握と助け合いの問題として捉えるべき。

大麻町未来づくり会議まちづくりワークショップでの主な意見 - 自由意見 -

- **地域内での公園不足への意見（小さな子どもが安心して遊べる場へのニーズ）。**
- **既存公園に対する要望と管理の重要さへの意見。**

  ➡ 公園は安全性と管理状態が重要。幼児期から低学年期にかけての「公園デビュー」や、保護者同士・子ども同士の出会いの場が必要。
- **放課後の子どもの居場所と多様な教育機会の充実。**

  ➡ 放課後子ども教室がなくなったこと、中学校でのプール授業がないことの改善。
- **安全意識の向上と子どもの活動内容の変化への意見（子ども会の解散等）**

  ➡ 子どもの減少に加え、親が地域に子どもを預けなくなっている。
- **集会所の活用可能性と老朽化への懸念。**

  ➡ 放課後や地域交流への活用を期待。その一方で、集会所は避難所指定されているが老朽化が心配。
- **防災を意識した地域コミュニティの構築。**

  ➡ 災害時は人のつながりが重要。女性部を立ち上げ、横のつながりを広める動きがある。
- **防災拠点設置への期待と懸念（収容人数等）。**

  ➡ 子どもの居場所として期待。ただし、収容人数には限界があるのでは。
- **地域課題の共有不足と地域住民の交流・連携への期待。**

  ➡ 交通、買い物、子育ての各テーマはいずれも、個人や家庭ごとの困りごとに見えて、実際には地域全体の共通課題である可能性が高い。コミュニケーションの場づくりや機会を設けることが重要。